

これってハットトリック G ?

OWCC 中川和道 20200318

救助体験記をもう1回お休みして、山本美雪さんの8000m峰 3座連続登頂について書く。

3月29日労山大阪府連の総会終了後、山本美雪さんに講演会をやっていただくことになっている。が、現在、新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大が続いていて日本ではまだピークを越えていない。そのため、この原稿を書いている3月18日現在、山本さんの講演会「8000m峰 3座連続登頂を成し遂げて」の実現は、限りなく不透明である。

労山兵庫県連・甲山労山の山本美雪さんは、2019年5月22日エベレスト 8848 m、同23日ローツェ 8516 m、9月27日マナスル 8163 m と、8000 m 峰 3 座を1シーズン内に連続的に登頂され、中川が知る限り日本人女性として初の快挙を成し遂げられた。1シーズン内に8000 m 峰 3 座を登ることは登山記録であり、日本人男性では尾崎隆さん(故人)などがすでに成し遂げておられる。女性では遠藤由香さん、長尾妙子さんが1シーズン内2座登頂を成し遂げられており、しかも、このお2人はガイド登山ではなく自主登山であるところにそのすごさがある。

山本美雪さんの記録「1シーズン内ガイド登山3座」が日本人女性初の未達成記録であることは確かであろう。「自主登山2座とガイド登山3座との登山の価値は自主登山2座が高い」との評価もあろう。確かに低いかも知れない。だが、中川の意見では、記録というものは、低いところから達成されて高いものへと向かうのが常である。「1シーズン内ガイド登山3座」が未達成の記録であることは確かなのだから、それはそれで評価を受けてもいいのではないだろうか？記録というものはそれで全てが達成されたわけでもなく、本来、通過点である。登山における記録も、本来、破られるためにある。そうして人類は進んできたのだと中川は思う。

ハットトリックという言葉がある。Wikipediaによれば、もともとはクリケットでひとつの回の中で3球で3人の打者をアウトにすること（ハットが贈られ栄誉が称えられる）だったというが、今は、サッカー、ラグビーその他の球技などで、試合中に1人の選手がゴールなど勝利につながるプレイを3回以上達成することを呼ぶ、とのことである。

登山におけるハットトリックをネット検索したら、『山岳ぐんま第1号』に、群馬県カラコルム登山隊1997の隊長を務められた名塚秀二氏がその輝かしい記録「カラコルム・ハットトリック」を書いておられる。当時をまざまざとご存知の方もおられよう。恐ろしく強い登山隊で、7/7 ガッシャーブルムⅠ峰 8068m に4名、7/8 ガッシャーブルムⅡ峰 8035m に3名、7/9 ガッシャーブルムⅠ峰 8068m に3名、7/14 ガッシャーブルムⅡ峰 8035m に5名、7/16 ブロード・ピーク 8051m に9名が登頂を果たし、「ハットトリックは達成した。次の目標であったダブルハットトリックは今回は逃した」というのだから、中川など、ぐうの音も出ない。

さて、山本美雪さんの記録に話を戻そう。ガイド登山であることを明確にしたいならば、ガイド登山のGを付記して、「日本人女性初の8000m峰ハットトリックG」と呼んだらどうだろうか？ガイドへの尊敬とか信頼があるならGという文字でそれをも表すのもいい。とにかく評価されてよいと思う。

大阪労山の仲間とともにその熱いお話をお聞きしたいとお願いし、3月29日大阪労山の総会終了後に山本さんの講演会をセットした。総会の代議員や役員でなくても、だれでもご自由にご参加してもらい、この素晴らしいお話を聞きたい。新型コロナウイルスの影響で総会が延期になるかも知れないが、この講演会は、絶対にやりたいと勝手連 中川は考えている。